

令和3年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

学校の現況と課題を鑑み、今年度は重点課題として、①Web会議システムを用いた交流学习の充実(学習活動)、②児童生徒の将来を見据えた進路情報の共有と理解(進路支援)、③コロナ禍におけるPTA活動の充実(その他)の3項目を掲げた。

重点目標の評価については、別添「8 学校アクションプラン」に記載のとおり、達成度及び取組状況から総合的に判断して、当初の目標を達成することができたと考える。

学校評議員からは、「①Web会議システムの使用には多くの困難があったと思われるが、生徒たちの『楽しかった』という感想を大切にしながら交流を継続してほしい。」、「②障害の重度重複化した実態から進路指導の難しさを痛感する。センター入所者は卒業に向けてのサービスの種類や内容を理解していることが少ないと思われるため、相談支援専門員との連携が重要になる。」、「③保護者が重視するサービスごとに障害福祉サービス事業を区分し、ガイドラインを作れば見学施設の選定もしやすくなると思う。」など、それぞれの立場からの意見や要望等をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度取り組んだ重点課題について、学校評議員からの意見を基に、次年度への課題と方策を次のようにした。

- ① 相手校と目的を共有することや活動内容について十分な打ち合わせをすることで交流学习の質を高める。
- ② 子供の年代により保護者の進路に対する考え方が違うことが明らかになったため、学習会を学部単位等の小集団で開催し、年代に応じた情報提供を図る。
- ③ 保護者の活動への参加をうながしたり、施設見学の情報を提供する機会を工夫したりしながら、活動の充実を図る。

(様式5)

8 学校アクションプラン達成度等

令和3年度 高志支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 - 高等部こまどり分教室 -
重点課題	We b会議システムを用いた交流学习の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none">・高等部こまどり分教室は生徒数も少なく同年代と関わる機会が限られているが、これまでは近隣の高等学校と互いに行き来して交流を深めてきた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相互の学校を訪問することが困難になり、学校行事もなくなったことから本校との交流の機会も減った。そこで、We b会議システムを用いた交流学习を行うようになった。・We b会議システムを用いた交流学习は年に1、2回、限られた生徒が行っている。交流先の学校によって使用するWe b会議システムが異なる。・生徒も教師も利用に不慣れであり、相手に伝わりやすいように情報を発信するための手段や一緒に行う活動内容の選定等、課題は多い。
達成目標	We b会議システムを用いた交流学习の実践回数 各生徒5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・近隣の高等学校とWe b会議システムを用いた交流学习を設定し、全生徒が1回以上参加する。また、本校同学年との交流学习にも複数回参加する。・We b会議システムに適した交流学习について、一回の学習に参加する人数や活動内容を検討する。交流学习後に、教員、生徒が振り返りシートを記入し、評価と課題を明らかにする。次回の交流活動までに改善案を検討する。・We b会議システムを通して、より効果的に情報を相手に伝えられるように、I C T機器を選んだり、人や物の配置を工夫したりする。
達成度	We b会議システムを用いた交流学习の実践回数 各生徒6回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・We b会議システムを用いて、分教室の生徒全員と近隣の高等学校2校との交流学习を計3回実施した。また、学年ごとに本校同学年との交流学习をそれぞれ3回ずつ実施した。・分教室の生徒や分教室及び本校の教師が記入した振り返りシートをもとに、参加人数や活動内容、使用するI C T機器の変更などの改善を行った。生徒同士が関わり合う時間を確保するために、本校との交流学习を5人程度の少人数のグループでの参加とし、ゲーム的な活動を通して自己紹介を行った。広角のWe bカメラやワイヤレスマイクの活用により、生徒全員の様子を映したり、発言をはっきり相手に伝えたりすることができた。
評 価	A <ul style="list-style-type: none">・近隣の高等学校との交流では、活動の中で生徒からの自発的な質問に、相手が笑顔で答えてくれるなど、友好的な関わり合いが見られた。また、授業で制作したものをプレゼントする機会を設定したことで、普段の授業の中で交流相手を意識して学習活動に取り組む姿が見られた。・We b会議システムと併用し、交換した自己紹介シート等を日ごろから目にするすることで、相手の名前を覚えたり、興味や関心のあることを知ったりすることで互いの理解が深まり、生徒が次回の活動内容等を積極的に考えることにつながった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・We b会議の準備等は大変だったと思うが、コロナ禍で安心して交流できるように取り組んでいることを評価する。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・長期的な視点で交流学习を計画・実施していくために、交流相手と目的を共有することや活動内容等について十分な打ち合わせをすることで、We b会議システムを併用した交流学习の質を高めていきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 高志支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	進路支援 -進路指導部-	
重点課題	児童生徒の将来を見据えた進路情報の共有と理解	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の推進については、高等部を中心に行われており、早い段階から将来を見据えたキャリア教育を推進していく必要がある。 ・児童生徒がより豊かな生活を過ごすために、在学中からの福祉サービスの利用も踏まえて支援していくことが求められるが、教員、保護者とも福祉サービスや進路に関する知識が不足している。教員や保護者一人一人が必要としている情報（福祉制度、障害福祉サービス、各居住地域の施設等）を確実に得て、共有する必要がある。 	
達成目標	進路に関する学習会（教員、保護者）	年5回以上
	研修が役立ったと感じた割合（教員、保護者）	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談や進路希望調査等を通して、児童生徒及び教員、保護者が必要としている情報を積極的に聞き取り、質問に対する回答を随時行う。 ・教員、保護者に参加を呼び掛け、児童生徒を取り巻く福祉の現状を知るための学習会を開催する。また、学習会の内容を共有し、理解を深めるための機会を学部で設定する。 ・学習会後にアンケートを実施し、教員、保護者の役立ち度を確認し、次年度以降に生かす。 	
達成度	進路に関する学習会（教員、保護者）	年6回
	研修が役立ったと感じた割合（教員、保護者）	98%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対しては、年度当初に実施している進路希望調査（全学部対象）を活用し、必要としている情報を聞き取り、その集計結果を基に学習会の内容、講師を決定し、進路学習会（保護者対象）を2回開催した。 ・教員に対しては、障害福祉サービスや福祉制度についての進路ミニ学習会を2回開催した。1回目は、障害福祉サービスの種類や内容及び卒業後の進路先について、2回目は、学習会後のアンケート結果からニーズが高かった、「就労継続支援事業所」についての学習会を行った。また、進路ミニ学習会として、進路学習会（保護者対象）のビデオ視聴及び情報交換会を2回開催し、情報の共有を図ったり、各学部段階での進路に関する課題について情報交換を行ったりした。 ・アンケートで寄せられた質問や詳しく知りたい内容については、随時、その回答を教員、保護者に提示し、さらに理解が深まるようにした。 	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、保護者が必要とする進路に関する研修会を開催し、それぞれの学習会の内容の共有を図りながら、理解を深めることができた。 ・教員や保護者一人一人がもっている進路に関するニーズが明確になり、それらを踏まえた研修会を行ったことで、在学中からの福祉サービスに対する意識が高まった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を工夫しながらの学習会や研修会の開催や進路掲示板での情報発信は評価Aに相当すると思う。継続した取り組みを期待する。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や保護者への障害福祉サービスに関する情報の共有と提供方法の工夫。 ・小集団（学年、学部等）での進路に関する学習会の開催。 ・進路掲示板、情報棚の充実と進路に役立つ情報の発信。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 高志支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他 - 総務部 -	
重点課題	コロナ禍におけるPTA活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、PTAが企画し保護者を対象として施設見学を実施し、児童生徒の卒業後の進路について研修を行っている。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多数の保護者が施設を訪問することが難しく中止となり、今年度も例年の方法では、実施が難しい状況にある。 ・保護者が必要とする施設の情報の収集及び提供方法を工夫し、進路へ向けての研修の機会を確保していくことが必要である。 	
達成目標	新型コロナウイルス感染拡大防止策に対応した施設見学の実施回数	年1回以上
	施設見学の様子を撮影した動画等による情報提供の回数	年2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ事前アンケートを実施し、必要とする情報を集約する。 ・事前アンケートの内容を基に、PTA代表者等が施設を訪問して情報を収集する。 ・行事等の機会に、情報収集した動画等を視聴するブースを校内に設置し、情報を提供するとともに、施設の概要をまとめた資料を配付する。 ・事後アンケート等で意見を集約する。 	
達成度	新型コロナウイルス感染拡大防止策に対応した施設見学の実施回数	年4回
	施設見学の様子を撮影した動画等による情報提供の回数	年2回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6月にPTA進路部の役員と総務部担当者が施設研修の方法を話し合い、少人数で短時間での施設見学を行い、保護者全員に情報提供することとし、PTA役員会で計画を提案し了承を得た。 ・7月に保護者全員に今年度の施設研修について案内すると同時に、アンケート調査を行い、保護者のニーズを把握した。 ・ニーズが高かった4事業所を見学対象とし、事前に見学と撮影を希望する箇所や質問項目を伝え、1名ないし2名による施設見学を実施した。 ・10月の学習発表会で施設研修の視聴ブースを設置し、各事業所の概要を20分間程度にまとめた動画を繰り返し放映し、自由に視聴できるようにした。 ・12月に4事業所の概要をまとめカラー印刷し配付した。 	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4事業所を対象に少人数で施設見学を実施することができた。 ・保護者アンケートを基に、保護者ニーズを事前に見学先の事業所に伝えることにより、短時間で効率よく見学を行い情報収集ができた。 ・学習発表会で視聴ブースを設置するとともに廊下に関係資料を掲示した。また、概要をまとめた資料を保護者全員に配付し情報提供を行うことができた。 ・事後のアンケート調査により、実施回数や研修内容に対し、保護者の大半が満足していることが分かった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を講じて保護者が視聴できるようにしたり、保護者に周知するために資料を配付したりしていることは評価できる。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における施設見学への保護者の積極的参加の工夫 ・施設見学の情報を提供する機会の工夫 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)